

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰準

勝木 紀子

倉内 雅子

倉智 睦子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則一

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

昨夜、わが国の言語聴覚障害分野の開祖である笹沼澄子先生の論文を久しぶりに読みかえしてみました。それは、1977年に『聴覚言語障害』第5巻4号で特集された“音声言語障害学の現状と展望”の中の論文で、タイトルは「言語障害学の最近の進歩」です。『聴覚言語障害学』という学術誌になじみのない方が多いと思いますが、当時の言語聴覚士の論文は『音声言語医学』や『聴覚言語障害』によく掲載され、いずれも言語聴覚障害学の発展を支えてきた専門誌です。

この論文の中に下記の記述があります。「言語障害の評価、診断、治療技術を、最新の知識や technology に基づいて常に改善し向上させ続けることが、障害者の福祉にとっての基本条件の1つである……(略)。しかし基礎領域における知見や technology の加速的な進歩に比べて臨床技術の歩みはややもすると遅れがちである……(略)。(これに対処するには：筆者)『臨床における研究の重要性』(を深く認識し：筆者)、臨床家と研究者を兼ね備えた人材を育成することが根本的な問題解決につながりそうである」

上記の内容は、約40年経過した現在でもまったく旧くなっておらず、現在の言語聴覚分野についてもいえることであると思います。言語聴覚療法において重要なのは、言語聴覚障害がある人の今日的ニーズに合った評価・診断や訓練・指導・支援の理論と技術を創出し、その質を向上させることであり、本誌はそのような研究の発表の場であり続けたいと願っています。

今号には、「失語症の言語治療の最前線」を解説した論文が3編掲載されており、失語症の言語聴覚療法の最新の理論と技術について情報を得ることができると思います。原著論文は、加齢性音声障害、重症心身障害における嚥下機能、吃音と言語聴覚士の社会的認知に関する研究で、ほかに失語症の術中覚醒下言語野マッピングに関する症例報告、“言語聴覚の日”に関する調査報告が掲載されています。いずれも言語聴覚療法の質の向上に寄与する興味深い研究です。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第16巻 第2号) 2019年6月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：本体2,000円＋税

2019年年間購読料：本体7,407円＋税(4冊、送料発売会社負担)

編集・発行：一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2019, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)